

平成 29 年度播磨圏域の主な事業内容について

播磨圏域連携ビジョンに掲げる 53 事業中、連携した取り組みが求められる「圏域全体の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」及び「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」等について平成 29 年度に特に連携が加速した事業について報告するもの。

1 圏域全体の経済成長のけん引

(1) 産業クラスターの形成、イノベーション実現、新規創業促進、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成

ア 海外販路拡大事業（新規）

(ア) 概要

海外からバイヤーを招聘し、商談会（現場への訪問商談会を含む）を開催することで、中小企業の海外での販路開拓を支援するもの。

(イ) 期間

平成 29 年 10 月 23 日（月）～27 日（金）

(ウ) 場所

播磨圏域内

(エ) 参加事業者数

13 社（姫路市 6、加古川市 2、たつの市 4、赤穂市 1）

(オ) 参加バイヤー数

3 名（香港 1 名、台湾 3 名（※1 名は自主参加））

(カ) 商談結果

台湾のバイヤーとの商談が成約した事例あり。（1 件）その他も商談継続中案件あり

イ バイオマス産業都市構想の研究（新規）

(ア) 概要

兵庫県立大学、京都大学の共同研究で、バイオ燃料等の有用物質を生産する藻である珪藻を低コストで培養するためのパイロットプラントを設置

(イ) 稼働開始日

平成 30 年 1 月 25 日（木）

(ウ) 場所

姫路市下水道管理センター 大的析水苑

(エ) 設置内容

温室、プール型培養槽、レースウェイ型培養槽

(オ) 培養できる量

約 5～8 トン

(カ) 下水施設での培養理由

下水処理時に発生する窒素分やリン酸、二酸化炭素は、珪藻が増殖する際に必要な栄養塩であるため。

(2) 地域経済の裾野拡大

ア 「豊穰の国・はりま」大物産展

(ア) 概要

播磨圏域連携中枢都市圏の地域ブランドである「豊穰の国・はりま」を広く PR するために、姫路城前の大手前公園で開催

(イ) 期間

平成 29 年 9 月 30 日（土）～10 月 1 日（日）

(ロ) 場所

大手前公園（姫路市本町）

(ハ) 来場者数

55,000 人（9 月 30 日（土）：22,000 人、10 月 1 日（日）：33,000 人）

(ニ) 出展者数（販売・展示含む）

全 64 団体

内訳：豊穰の国・はりま事業者 48 事業者

市町 PR ブース 16 市町

イ 「豊穰の国・はりま」食材バスツアー（新規）

(ア) 概要

播磨地域ブランド“豊穰の国・はりま”の知名度向上、ブランド製品の販路拡大を目的として、関西圏のプロの料理人を対象に、播磨圏域連携中枢都市圏 8 市 8 町の美味しい食材をその場で味わい、食材本来の魅力を体感してもらうバスツアーを実施。

(イ) 実施日

平成 29 年 12 月 4 日（月）

(ロ) 参加者数

- ・豊穰の国・はりま登録事業者 11 者
- ・ツアー等参加者 24 名

ウ 播磨地域ブランドの情報発信事業（新規）

(ア) 概要

本事業を通じて、播磨地域ブランド「豊穰の国・はりま」の登録産品を中心とした播磨のブランド食材を全国に PR するとともに、ブランド価値の向上を図る。

(イ) 実施内容

- ・料理通信への特集記事の掲載
- ・東京都南青山のレストランでの食事会イベントの実施
- ・ブランディングポスターの作成
- ・「FOODEX JAPAN2018」（幕張メッセ）への出展

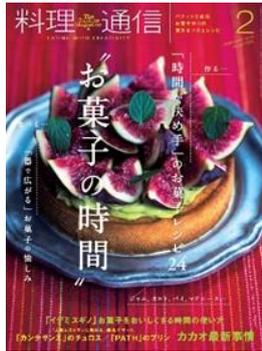


図1：料理通信の特集記事



図2：ブランディングポスター（牡蠣、日本酒、醤油）

(3) 戦略的な観光施策

ア 訪日外国人向け着地型観光プログラムキュレーション事業（新規）

(ア) 概要

訪日外国人観光客への訴求性の高い着地型観光プログラム（体験型プログラム）を掘り起こすとともに、その情報を効果的に発信する。

また、観光資源の掘り起こしにあたっては、外国人専門家の目線による現地調査・分析を実施し、訪日外国人旅行客への訴求力の高いメニューを選定する。

(イ) 外国人専門家の招へい

アレクサンダー・スタンコフ氏（ブルガリア出身）

※訪日外国人に有名な体験型観光サイト「Voyagin」コンテンツプロデューサー

(ウ) 成果物

着地型観光プログラムをまとめたパンフレットを作成するとともに、姫路観光コンベンションビューローウェブサイト「ひめのみち」にて情報発信予定



図3：体験型観光資源の現地取材

イ 広域観光パンフレットの配布

(ア) 日本語版パンフレットの配布

- ・ 高速道路SA・PAなどに11/16-1/15の間16500部の配布
- ・ 姫路市観光案内所、姫路市東京事務所、まるごとにつぼん浅草での配布
- ・ 各種イベントでの配布

熊本火の国まつり (平成29年8月4日(金)～6日(日))

まつり宮崎 (平成29年8月19日(土)、20日(日))

ツーリズムエキスポジャパン(平成29年9月21日(木)～24日(日))

おかやまもたらうまつり (平成29年10月7日(土)～10日(火))

人間将棋 (平成29年11月4日(土)～5日(日))

世界遺産姫路城マラソン (平成30年2月11日(日))

(イ) 外国語版パンフレットの配布

- ・ KTICに設置(関西ツーリストインフォメーションセンター)
- ・ JTB海外支店に設置(シンガポール、バンコク、ジャカルタ各支店)
- ・ 旅行博での配布(JNTOブースでの配布)

マレーシア MATTA Fair Johor Bahru (平成29年8月4日(金)～6日(日))

タイ TITF #21 (平成29年8月10日(木)～13日(日))

インドネシア Japan Travel Fair 2017 (平成29年8月25日(金)～27日(日))

マレーシア MATTA Fair Kuala Lumpur (平成29年9月8日(金)～10日(日))

タイ FIT Fair #11 (平成29年9月22日(金)～24日(日))

インドネシア Garuda Travel Fair 2017 (平成29年9月22日(金)～24日(日))

イギリス WTM London 2017 (平成29年11月6日(月)～8日(水))

マレーシア Japan Travel Fair 2018 (平成30年1月11日(木)～14日(日))

タイ TITF#22 (平成30年2月7日(水)～11日(日))

インドネシア Japan Travel Fair 2018 (平成30年3月9日(金)～11日(日))

マレーシア MATTA Fair Kuala Lumpur (平成30年3月16日(金)～18日(日))

2 高次の都市機能の集積・強化

(1) 姫路駅周辺整備事業の推進

ア コアゾーンAブロックの整備状況

(ア) 計画内容

ホテルモントレ姫路

(イ) 概要

都市型ホテル、商業施設及び駐車場で構成される。ホテルの施設・機能としては、全てツインルーム以上の客室を 274 室、宴会場、レストラン、スパ、チャペルを整備

(ウ) 進捗状況

平成 30 年 3 月 23 日(金)にグランドオープン



図 4 : A ブロック整備イメージ

イ コアゾーンCブロックの整備状況

(ア) 計画内容

健康・生きがい・キャリア開発プロジェクト

(イ) 概要

医療系専門学校、高齢者向け住宅、保育所、クリニック、フィットネスジムを計画

(ウ) 進捗状況

平成 30 年 4 月に医療系専門学校が開校、平成 30 年秋頃には、すべての施設が開業する予定



図 5 : C ブロック整備イメージ

ウ コアゾーン内の歩行者デッキの整備

(ア) 計画内容

J R 姫路駅からイベントゾーンをはじめとする駅東地区への歩行者動線として、車道と交差することなく、安全で快適に移動できる 2 階レベルの歩行者空間を確保するもの

(イ) 進捗状況

官民協働により歩行者デッキを整備中



図 6 : 歩行者デッキの整備イメージ

エ (仮称) 姫路市文化コンベンションセンターの整備

(ア) 計画内容

播磨の中核都市にふさわしい交流の拠点施設として、文化・芸術の拠点機能と「ものづくり力の強化」「地域ブランドの育成」「交流人口の増加」の促進機能をあわせ持った(仮称)姫路市文化コンベンションセンターを整備

(イ) 概要

大ホール(約 2,000 席)、中ホール(約 700 席)、小ホール(約 180 席)、展示場(平土間)(約 4,000 m²)、会議室(大 3 室、中 5 室、小 2 室)、その他施設(メインスタジオ(リハーサル室)、練習室、屋外展示場 等)

(ウ) スケジュール

平成 30~32 年度 建設工事

平成 33 年度 オープン



図 7: 文化コンベンションセンター整備イメージ

3 生活関連機能サービスの向上

(1) 図書館施設相互利用促進事業（マイナンバーカードの活用した図書の貸し出し）

ア 概要

播磨圏域 8 市 8 町の 37 館・約 407 万冊の図書の貸し借りが可能となり、姫路市、福崎町、神河町では、マイナンバーカードを活用した図書の貸出しが全国に先駆けて開始した。

イ 新たな取り組み団体

- ・赤穂市（平成 29 年 10 月）
- ・相生市（平成 30 年 3 月予定）

ウ 自動貸出機の対応

姫路市の図書館（2 か所）において、マイナンバーカードを活用した自動貸出機による図書の貸出を新たに開始した。

エ 参考（マイナンバーカードの利用登録者数）

平成 29 年 12 月時点 利用登録者数 161 人（うち姫路市 119 人）



図 8：姫路市におけるマイナンバーカードの図書館利用イメージ



図 9：今後の播磨圏域でのマイナンバーカードの図書館利用展開

4 地方創生推進交付金を活用した連携事業

(1) はりまクラスター型サイクルスタイル構築事業

ア 概要

播磨圏域連携中枢都市圏域各市町の公共交通機関から自転車で観光地までをつなぎ、自転車を使った二次交通の利用を促進し、広域観光を推進

イ 平成 29 年度事業内容

(ア) サイクルルートの試走ツアーの実施

実施回数：5回

実施箇所：高砂市-加古川市、赤穂市、加西市-福崎町、稲美町-播磨町、上郡町-佐用町

(イ) レンタルクロスバイクの設置個所の追加

中距離圏内を走行可能な「クロスバイク」を相生市及び赤穂市の2か所、合計5台を無料で設置

設置場所；ステーションホテル(相生市)、銀波荘(赤穂市)

(ロ) サイクルエイドステーションの設置個所の追加

自転車のメンテナンス(空気入れ、パンク修理)が無料で出来る「サイクルエイドステーション」を9か所に新たに設置

設置箇所(内訳)：相生市1、加古川市1、赤穂市1、たつの市2、稲美町1、播磨町1、上郡町1、佐用町1

(ハ) 播磨地域の木材を利用したサイクルラックの作成

播磨地域の木材を使用し、県立山崎高等学校、県立龍野北高校がデザインしたサイクルラックを作成し、新たに播磨圏域内の施設に順次設置する

※設置個所は、今後調整する。



図 10：播磨圏域の木材を使用したサイクルラック

(2) 姫路・石巻縁推進事業

ア 概要

東日本大震災復興を契機に交流が深まっている宮城県石巻市と、播磨圏域・石巻市の名産品(地酒・海産物・菓子等)競演イベントの参加・共同PRを行い、圏域の名産品の販路拡大・魅力発信を図る

イ 両地域の特産品フェアの実施

(ア) 実施場所

イオンモール伊丹店(兵庫県伊丹市)

(イ) 実施日

平成30年3月17日(土)～21日(水・祝)

(ロ) フェア商品の商談会の実施

フェアの実施及び今後のイオンでの商品の販売につなげるための商談会を実施

参加事業者：18者(姫路市7、相生市1、加古川市1、赤穂市1、加西市1、稲美町1、神河町3、太子町1、佐用町2)

(3) 民間交流からはじまるインドネシアおともだちプロジェクト（新規）

ア 概要

近年経済成長著しく、今後 20 年間で中間富裕層が爆発的に増えることが予想されているインドネシア共和国に対して、交通事業者、教育機関、自転車愛好家など民間での交流が始まっているが、播磨地域への観光客は極端に少ない状況にある。

そこで、播磨地域の多様な観光資源（自転車観光やスキー場など）を活かしたインドネシア共和国からの誘客促進事業を展開するとともに文化、教育、観光、産業など多方面からの交流を推進することにより、インドネシア人にとって播磨地域をメジャーな訪問先に磨き上げることを目指すもの。

イ 平成 29 年度事業内容

(ア) インドネシア共和国に関する基礎調査

期間：平成 29 年 12 月～平成 30 年 1 月

内容：インドネシア共和国の基礎情報、訪日インドネシア人の動向、インドネシアからの就労者、留学生の現状、インドネシアへ進出する企業の現状などを調査

(イ) ワーキンググループの設立・運営

実施日：平成 30 年 2 月 7 日（水）

構成員：姫路商工会議所、三井住友銀行、みなと銀行、姫路信用金庫、播州信用金庫、兵庫信用金庫、イオン、神姫バス、姫路観光コンベンションビューロー、姫路市文化国際交流財団、播磨圏域連携市町

内 容：「インドネシアおともだちプロジェクトワーキンググループを組織し、事業についての意見交換及び情報共有等を行う。

(ウ) ムスリムフレンドリー講習会の開催

・第 1 回講習会

実施日：平成 30 年 2 月 7 日（水）

場 所：姫路市市民会館

講 師：一般社団法人 ハラル・ジャパン協会 代表理事 佐久間 朋宏氏

定 員：100 名

・第 2 回講習会

実施日：平成 30 年 3 月 14 日（水）

場 所：姫路市市民会館

講 師：株式会社 フードピクト 代表取締役 菊池 信孝氏

定 員：40 名



図 11：インドネシア共和国でのサイクルブーム

(エ) インドネシア国内メディア向けファムトリップの実施

実施日：平成30年3月3日(土)～7日(水)

訪問箇所：播磨圏域内（インドネシア人に対して訴求力のある観光素材を中心に選定）

参加者：インドネシア国内のメディア関係者5名程度（新聞、雑誌、ネット関係者）

その他：事業全体をコーディネートする必要があるため、インドネシア国内の知見のある有識者もあわせて招へい予定

(4) 酒米の王様・山田錦を擁する日本酒のふるさとはりまプロジェクト（新規）

ア 概要

播磨は酒米の王様「山田錦」の生産地であることや、豊かな自然が生み出す名水により、多くの酒蔵が集まる酒造りの地の一つであるため、本市ではこの資源を活用し、播磨地域ブランド「豊穰の国・はりま」を立ち上げ、全国に向けて発信しているところであるが、それに加えてはりまの酒の特性を活かした新商品開発や、播磨に古くからある酒、みそ、醤油の麹文化の観点からの播磨の歴史の研究など、文化・教育を含め多角的に官民連携で取り組み、はりまの地酒のブランド力の強化を図るもの

イ 平成29年度事業内容

(ア) （仮称）酒なびポートの設置

期間：平成30年3月中旬～下旬

場所：姫路駅周辺

内容：山田錦を使った「播磨の地酒」を提供する飲食店の紹介

(イ) 酒樽オブジェットの設置

設置日：平成30年3月頃(予定)

場所：姫路駅周辺

(ロ) 東京圏内での播磨の日本酒の取り扱い状況調査

期間：平成30年1月～3月中旬

場所：東京圏内

内容：播磨の日本酒の取り扱い状況の調査、取り扱い飲食店等のマップの作製（10,000部作製し、東京圏の百貨店、酒販店、飲食店等に設置予定）

(エ) 国外の旅行業関係者、海外ブロガー等のファムトリップの実施

実施日：平成30年2月22日(木)～24日(土)

訪問箇所：播磨圏域内の酒蔵及び観光資源

参加者：国外の旅行業関係者、海外ブロガー、日本酒のプロモーションに影響力のある有識者等 計8名程度

(オ) 酒蔵パンフレット、ホームページのフランス語版の作成

実施日：平成30年3月下旬

内容：酒蔵ガイドブック、はりま酒文化ツーリズムのホームページのフランス語訳の実施（2,000部印刷予定）

5 民間事業者との包括連携協定の締結について

(1) イオン株式会社(イオンリテール、イオンモール、山陽マルナカ、マックスバリュ西日本を含む)

ア 締結日

平成 29 年 5 月 26 日(金)

イ 特徴

(ア) イオンとして、連携中枢都市圏の連携中枢都市と初めて連携協定を締結

(イ) イオングループで播磨圏域ほぼ全体をカバー

ウ 連携して取り組む具体的な事業例

(ア) 播磨地域ブランド「豊穰の国・はりま」登録商品の販路拡大

(仕入れ担当者との商談会や、商品のブラッシュアップのアドバイスなど)

※平成 30 年 3 月 17 日(土)～21 日(水・祝)にイオンモール伊丹店でフェアの実施

(イ) 播磨地域ブランド登録商品を活用したギフト商品の開発

※平成 30 年夏のギフトに向けて商談を実施済み

(ウ) 各種イベント会場の提供や行政情報の発信・PR

(エ) 圏域内のイオンモール、マックスバリュでの振り込み詐欺防止の取り組み



図 12：イオンとの協定締結、連携事業調整会議

(2) 三井住友銀行・みなと銀行

ア 締結日

平成 29 年 6 月 12 日(月)

イ 特徴

(ア) 三井住友銀行は都道府県・政令市との協定を基本としているが、連携中枢都市圏の連携中枢都市と初めて連携協定を締結

(イ) 三井住友銀行とみなと銀行で播磨圏域ほぼ全体をカバー

ウ 連携して取り組む具体的な事業例

(ア) 両行の取引先と播磨圏域の事業者・農水産生産者のマッチング事業の実施

※連携市町発祥の大手飲食チェーン店が運営する楽天 EC サイト内で、豊穰の国・はりまに登録された商品の販売が開始

(イ) 三井住友銀行本社(東京都千代田区)での播磨地域の製品の販売イベントの実施

※平成 30 年 3 月 8 日(木)、9 日(金)に実施

(ウ) 播磨圏域への移住者増加へ向けて、みなと銀行の移住ローンの対象範囲を播磨圏域内に拡大



図 13 : 三井住友銀行・みなと銀行との協定締結、連携事業調整会議

6 その他連携中枢都市圏に関する広域連携事業について

(1) 複数自治体による広域的な立地適正化の方針の策定

ア 概要

人口減少・高齢化を背景に、鉄道路線を軸として沿線自治体が必要な都市機能を分担・連携することの必要性が増大しているため、播磨圏域連携中枢都市圏内の中播都市計画区域を有する関係市町及び公共交通事業者が連携して広域的な立地適正化の方針を策定

イ 関係団体

姫路市、たつの市、太子町、福崎町。JR 西日本、山陽電鉄、神姫バス

ウ 主な内容

広域的な都市機能の集積を図るべき地区を姫路駅周辺、その他の地域的な都市機能の集積を図るべき地区を各拠点に設定し、都市機能の役割分担を整理した。

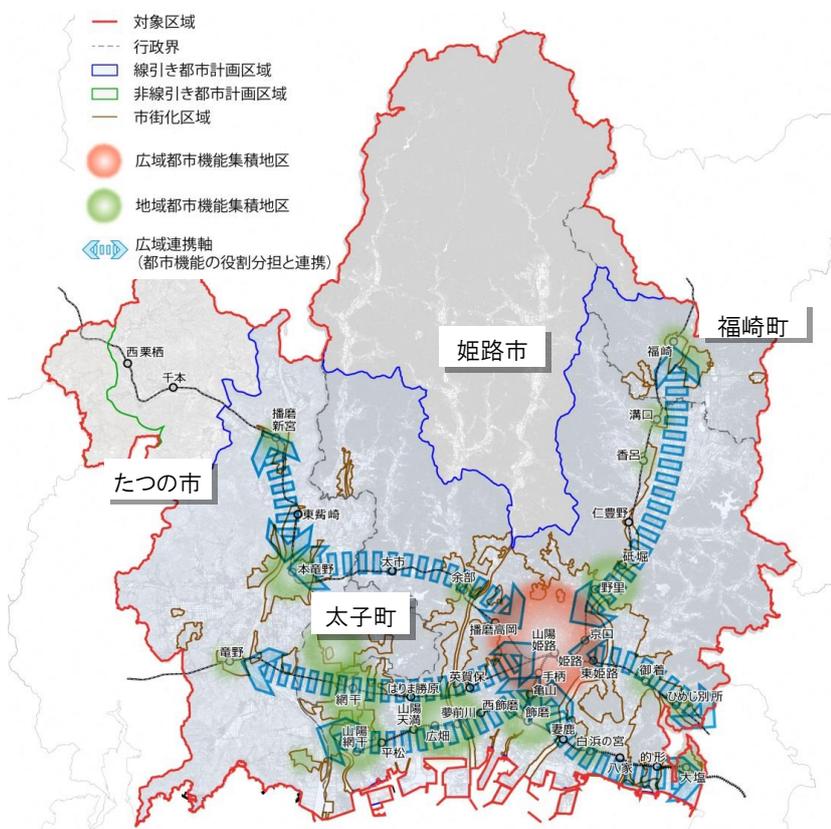


図 14：立地適正化の方針